

支柱を設置後支柱カバーを設置して下さい。(図2参照)

現場毎に手配頂く部材 参考

全ネジ:寸切M12 ナット 座金 (支柱)

(支柱カバー) 下記に相当するもの

ステンパイプ 外径22×内径19

鉄パイプ 外径21.7×内径17.9 (肉厚1.9mm) 錆止め済みのもの アルミパイプ 外径22×内径19

*施工に必要な部材は錆びにくいもののご使用をおすすめします。

*支柱カバーは一番上にくる製品の高さよりも少し短く設定して下さい。支柱カバーが 製品より長いと上部をナットで締付けできないためです。

②-A 強度保持をフレームとする場合

左右にフレームを立てる。(図3AB参照)

フレームは90角又は50×100mm程度を基準とします。

横方向に長く連続する場合は1500mm程度ごとに中間フレームを設定すると製品がしっかりします。 製品積み上げ後、左右のフレームを上部でつなぎ、強度を確保します。(図8参照)

②-B 強度保持をコンクリートブロックとする場合

左右にコンクリートブロックを積み上げる

補強バー(KZ2-CSHB)を使い左右のコンクリートブロックと連結することで強度を確保します。 横方向に長く連続する場合は1500mm程度ごとに中間フレームを設定すると製品がしっかりします。 補強バーを使用する部分だけは、高さ方向をそろえるため、付属の緩衝ゴムを使用しません。

補強バーの取付位置は最上部にくる製品の下側及び、必要に応じて中間部にも設置します。

(図4、写真1、2参照)

2 支柱に緩衝ゴム・製品の順で通し、組み上げる。

端部には円柱型を用います。

緩衝ゴム〈材質EPDM(エチレン・プロピレン・ゴム)〉は、製品の付属品として同梱してあります。

組み上げに際しては、水平、垂直、表裏面を調整しながら進めて下さい。

高さ方向の中間部で横方向にフラットバーを設置することにより

強度的にも安定し、製品寸法の誤差等による水平レベルのくるいを調整できます。(図6B参照)

さらに、ナットで締めるとより安定します。

また、フラットバーを入れた厚み分だけ見え方も異なります。

3上部を固定し強度を確保します。

支柱(全ネジ)に座金、ナットを使い上部で固定します。(図6A参照)

ナットで締める際には水平レベルにご注意下さい。

緩衝ゴムがあるためナットはかなり締まりますが、全体の面が動きにくくなった程度で止めて下さい。

4 上部の納まり

A 上部フタの場合

フタの裏側には2カ所凹みがあります。その凹みにナットを納め、フタのレベル、傾きを調整しながらボンド接着して下さい。 湿った状態ではボンドが付きにくくなることがありますのでご注意下さい。(養生時間を確保下さい。)

フタは2カ所で固定しているだけのため、若干動きます。(図4参照) *上部フタを使用する場合支柱の本数を偶数にして下さい。奇数の場合はフタが合いません。(図7参照)

支柱が偶数の場合 支柱が奇数の場合 支柱が偶数の場合 支柱が奇数の場合 現場手配部材 -ナット(現場毎に手配頂く部材) 緩衝ゴム(付属品) 座金(現場毎に手配頂く部材) (図7) (図8)

B フレームの場合

支柱を上部フレームに固定します。(図8参照)

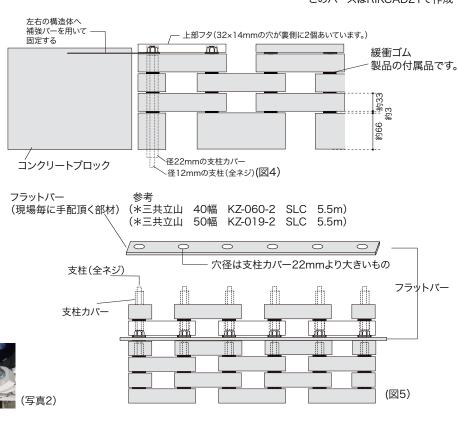
フレームの納め方、デザイン処理は現場毎にご判断下さい。

注意事項

*セラミックスクリーンはコンクリートブロックを積んだ丈夫さとは異なり基本的に動かないという構造ではありません。柔軟に動けるような構造としています。

(写真1)

- *子供が上がったりする場所は安全のため避けて下さい。
- *セラミックスクリーンだけでの自立は動きが大きいため推奨できません。左右上部や中間部での構造体への固定が必要です。
- *高さは、1200mm 程度までを目安として下さい。



ナット(現場毎に手配頂く部材)

座金(現場毎に手配頂く部材)

(図6B) フラットバーを

フラットバーを 締めるナットは

より安定します。

製品の穴に納まります。 また、ナットで締めておくと

使用した場合

緩衝ゴム(付属品)

支柱カバーは 製品よりも少し

下げた位置に

径22mmの支柱カバー

径12mmの支柱(全ネジ)

調整して下さい。

(図6A)